

議 事 録

会 議 の 名 称	令和４年度 第１回藤井寺市総合計画審議会
開 催 日 時	令和４年９月２７日（火） 午後５時３０分 ～ 午後８時００分
開 催 場 所	藤井寺市役所 ３階３０５会議室
出 席 者	（審議会委員１２名） 加藤司委員、的場啓一委員、宗田好史委員、木村三千世委員、星野智子委員 高原達也委員、上田裕彦委員、家田葵委員、小松祥一委員、松川哲也委員、 下井由美子委員、森千歳委員 ＊（欠席委員：３名） （市側） 岡田市長、東野副市長、山本政策企画部長、永田政策企画部次長兼政策推進課長、 小川主幹、田中主幹、脇田チーフ、増田主査、杉野主事 （コンサルタント） 有限責任監査法人トーマツ
会 議 次 第	１．開会 ２．市長挨拶 ３．委員委嘱 ４．委員紹介 ５．会長・副会長選任 ６．会長挨拶 ７．諮問 ８．議事 （１）第六次藤井寺市総合計画策定方針について （２）藤井寺市の現況・課題報告について （３）その他 ９．閉会
配 付 資 料	・審議会の次第 ・資料１ 第六次藤井寺市総合計画策定方針 ・資料２ 社会指標分析報告書（概要） ・資料３ 社会指標分析報告書 ・資料４ 第五次藤井寺市総合計画進捗状況調査結果（概要）
議事録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）

公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	1人
その他必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
1. 開会 2. 市長挨拶 総合計画は市の将来像を示す行政運営の指針となるものであるが、現在の総合計画は令和5年度末で満了となる。 今後、人口減少、少子化・高齢化をはじめ、健康増進、自然災害や感染症等の危機管理体制の強化、世界遺産の保存と活用、地域の活性化、市民や企業と連携したまちづくり、SDGsの推進、カーボンニュートラルへの取組、デジタル技術の活用等への対応が必要となっている。このような現状や行政課題を踏まえながら、将来世代の育成を見据えた子育てと教育、市民の生命を守る危機管理、観光・健康・環境を特に重要なキーワードとして考えている。 審議会での審議を賜り、藤井寺市の将来を見据えた実効性の高い新たな総合計画としてとりまとめていければと考えている。まずは基本構想をとりまとめるにあたり、本日お集りいただいた委員の皆様に答申をいただきたい。 3. 委員委嘱 4. 委員紹介 5. 会長・副会長選任 互選により、加藤会長、的場副会長が選出された。 6. 会長挨拶 (1) 加藤会長挨拶 第五次総合計画策定時の審議会から大多数の委員が入れ替えとなっている。 前回策定した基本計画の内容がどこまで達成されたか、あるいはどの程度引き継がれていくのかということとはしっかりと確認しなければならない。 SDGsなど市民の意識や世の中の動きは大きく変わってきており、将来を見据えて考えていかなければならない。したがって、新しい委員の皆様から多様な意見を出していただき、将来に向けた議論ができればと考えている。 (2) 的場副会長挨拶 第五次総合計画策定時の審議会から多くの委員が交代していることから、新しい考え・発想が出てきてしるべきと考える。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受けて生活様式そのものを見直さなければならなくなっているため、そうした社会的変化を踏まえながら新しい総合計画の基本構想を作り上げていきたい。

7. 諮問

8. 議事

(1) 第六次藤井寺市総合計画策定方針について

事務局より資料1を用いて説明

<委員意見>

- ・どこに力を入れていくのか、藤井寺市としての特徴が見えてこない。市としてどのような問題意識があるのか、ということに基づいて議論しなければ、このままでは他の自治体と同じ総合計画になってしまうのではないか。
- ・藤井寺は市域が小さいという特徴を有するまちであり、この点を踏まえた総合計画でなければならない。他の自治体と同じような総合計画を策定することは望ましくない。
- ・人口減の局面では、どう生き残るかという道筋を考えなければならない。葛井寺というお寺がありながら、門前町の保全・活用ができていない。人口減少や都心回帰のトレンドなどの社会情勢を踏まえ、どうやって藤井寺を再生していくかという議論が必要であり、再生のためには個性を打ち出した総合計画にする必要がある。
- ・人口減少は避けられないものと受け入れたうえで、どのように生き残るかを計画として示す必要がある。
- ・藤井寺球場、門前町、商業施設がなくなるにつれ、藤井寺市からにぎわいが失われていった。藤井寺市らしい将来のまちづくりを考えなければならない。
- ・今後の審議会を通じて、藤井寺市らしい特徴のある計画を作っていきたい。

(2) 藤井寺市の現況・課題報告について

事務局より資料2を用いて説明

<委員意見>

- ・法定計画、立地適正化計画や空き家特措法などの内容を踏まえた報告としてほしい。
- ・ファクトの報告だけでなく、何が課題かが明確となるような報告をしてほしい。
- ・定量的な分析が多く見受けられるが、定性的な分析はあるか。SWOT分析では定量的・定性的が混在しているように見受けられる。
- ・クロスSWOT分析で読み取ったプロセスや根拠を示してほしい。
- ・人口減少や少子高齢化により保育所や介護施設等はどのように変化するかなど、市民生活に影響を及ぼす事項を一つ一つ点検していかなければならない。
- ・1万円分のレシートを市に提出すると3,000円キャッシュバックされるというキャンペーンが藤井寺市で実施されている。このキャンペーンに対する効果測定は実施されるものと思われるが、そういった具体的なデータに基づく施策検討を行ってほしい。
- ・藤井寺市市民としてこれまで藤井寺市の活力が失われてきているのが実感としてあり、これに対する施策を打たなければ先行きが厳しいと懸念している。どのような魅力のあるまちをつくるのかという方針を総合計画に盛り込まなければならない。市としての具体的な課題に対する施策の指針を総合計画で示さなければならない。

- ・現況は理解できるが、課題が見えてこない。各個別の計画においてはより詳細な分析を行っているため、それらを踏まえたうえで、市として何が課題か、これまでの取組のどこが問題であったのか等の報告があれば、本質的な議論ができるのではないかと。次回審議会には市の個別計画や国・大阪府の考え方を踏まえたうえで市の課題を報告してほしい。また、周辺団体の水準と異なっている理由などの定性的な分析も行してほしい。

(3) 第五次藤井寺市総合計画の進捗状況について

事務局より資料4を用いて説明

<委員意見>

- ・他の自治体では企業のリモートワークのスペースとして空き家を活用した事例があるが、リモートワークに関する市の取組状況はどうなっているか。
- ・現行計画はコロナ禍前に策定されたものであるため、市の担当課による自己評価としては「概ね計画どおりだが一部未実施・未達成」が多くなっているという報告であったが、何が問題となっているかが分からない。
- ・現在の担当課による自己評価だけでなく、市民アンケートや市民ワークショップにおける市民からの評価も今後報告いただけるという認識である。
- ・重点施策に対して予算を確保するため、どの施策を切り詰めていくかという議論も行っていかなければならず、その際に施策評価も参考となると考える。
- ・「良いまち」とは何かを各委員にお聞きしたい。
 - 住民が子どもの未来を見守るとともに、自分の子どもだけではなく周りの子どもも育む、すなわち「育みあえるまち」。
 - 子どもの将来が安定している（お金の不安がない）ことに加え、共助のコミュニティが機能しているまち。
 - 市で実施されている様々な審議会が連携するとより良いのではないかと。
 - 市民にとって良いまちとは、コミュニティが発達しているまちであると考え。隣人の幸せを自分の幸せと同じように感じられるようなまちづくりが望ましい。
 - 日々、生きる力を与えてくれるまち。そのためには、仲間意識を醸成することが重要であると考え。
 - いい人が育つまち。平均寿命が伸び、豊かな老後が長くなっているなかで、そういった人たちの生きる意義を引き出せるまちが良いまちであると考え。
 - 一人一人の役割があるまち。役割があるという意識が仲間意識、生産性、誇りを生むと考え。
 - 人と人が自然につながっているまち。その点、藤井寺市は地域のつながりが強い、良い市だと感じている。
 - 寛容なまち。寛容さが様々なことを生み出すと考えている。数字だけを見るのではなく市民一人一人に目を向けることが重要であると考え。
 - 人の顔が見えて地域の人と普段話ができて、また、家族とゆっくり過ごすことのできるまち。
 - 商工業が活発であり市の税収も支えられているような、経済が循環しているまちが良いまちの条件であると考え。

(4) その他

- ・次回の審議会は12月13日（火）午後5時30分から開催する。

9. 閉会

以上